
長期アルコール摂取者に生じた亜鉛欠乏症の 1 例

金田 一真、森脇 真一

(大阪医科薬科大学医学部 皮膚科学教室)

症例は 70 歳、男性。

既往・併存症に高血圧と胃・大腸ポリープがある。長期的にアルコールを摂取しており、過去に肝機能障害を指摘されたことがある。

初診 6 か月前に顔面に紅斑が出現したが、痒痒など自覚症状がないため放置していた。

次第に外陰部などにも皮疹が出現したため、初診 2 か月前に近医皮膚科を受診した。尋常性乾癬などが疑われ、ステロイド外用薬による治療を行ったが難治のため、精査加療目的にて当科紹介となった。

初診時、顔面や四肢、外陰部に鱗屑や痂皮を伴う紅斑がみられた。血液検査にて血清亜鉛低値 (53 μ g/dL) を認め、亜鉛欠乏症を疑った。経口での亜鉛補充を開始したところ、血清亜鉛値とともに皮疹の速やかな改善を認めたため、臨床所見・臨床経過から亜鉛欠乏症と確定診断した。長期アルコール摂取者で、外用療法に治療抵抗性の皮疹を経験した場合には、亜鉛欠乏症も鑑別疾患として考慮する必要があると考えられる。